

小説『ロスト・タブレット』の新連載が始まっています。 2019年2月～

## 『新編・ロスト・タブレット 2019』

### 3. コロンビア通信

2019年4月6日

『恵みを求め、我々の無関心ゆえに泣き、世界の残酷さゆえに泣きましょう』

ホルヘ・マリオ・ベルゴリオ＝ローマ教皇フランシスコ

本稿からはこれまでに頂いた熱心な読者、フォロワーからの有難い質問や鋭い突っ込みを紹介させて頂き、その回答や解説、言い訳を随所に取り上げてまいります。(でもよくある質問のQ&Aにならないように努めます)

◆ マリアからコロンビア通信が届いた。

1) 今回は1982年にノーベル文学賞を受賞したコロンビアの作家ガブリエル・ガルシア・マルケス(ガボ)の小説「百年の孤独」がNetflixで映像化されるというのだ。

「シオもよく知ってるでしょう。ガボの誕生日3月6日が近づくと毎年少しガボの話題が持ち上がるわよね。今年の話がなんとこれなのよ。あなたの小説「ロスト・タブレット」にはプロロゴ(序章)からガボの葬儀の様子が描かれているでしょ(ガボは2014年4月17日に逝去)。あれから丁度5年、ついにあの大作「百年の孤独」の映像化が決まったのよ」

「わあ、それはすごいニュースだね!でもガボの奇想天外な魔術的リアリズムの世界をいっただうやって表現するんだろうね?」

「そうなのよ、なにしろ生前ガボは事あるたびに映画化を頑なに拒んでいたのよ。映画監督の長男ロドリゴ・ガルシアとも意見が合わず、(原作の味を出すには絶対にスペイン語でなきゃ駄目。百年を追う長尺だから一本の映画では収まらない)といった理由でね。でも時代が変わり、Netflixのような動画配信サービスならいつでもどこでも楽しめるから、映画にくらべて視聴者の数は爆発的に増えたでしょ。そして何よりもシリーズ連続ドラマ仕立てにすればどんな長尺版でもつくれるわ。利点はもっとあるわよ。アカデミー外国語映画賞のように外国語作品でも受け入れられる時代になったのが大きいわね。スペイン語で行けるのよ。こうしてやっとガボの遺族と折り合いがついたという訳。二人の息子が制作責任者となり、コロンビアで撮影されことになったんだって!ケ・マラビージャ(素晴らしい)よ!ガボは死してなおサプライズね。シオの本に

書いてあるとおりね！」 ◎ B-wink 本編 12 ページ、410 ページ、412 ページ  
「う〜ん、どんなキャスティングのドラマになるのかいまから楽しみだね」

2) シオ（勝呂）からの情報：ジム・ロジャーズ本（PHP 新書）の本からとコロンビア・ツアーのこと。

「マリア、今度は僕からのお知らせだよ。僕らにとってとても嬉しい情報を紹介するよ。今年初めに日本で出版された世界的投資家ジム・ロジャーズ氏の本に書かれているんだけど、[経済の変動に左右されない人生を送る秘訣]の章を抜粋するとね…」

（私が日本人の若者なら、移住先はこの四カ国だって。韓国か中国、あるいはコロンビアかベトナムへ行くだろう。さらに今後、日本では、海外の市場に頼らなければビジネスが成り立たなくなる。そのため、とりわけ日本人にとって、外国語のマスターは必須事項と言ってもいい。すでに英語が話せる人は、さらに中国語やスペイン語を身につけてはどうか。スペイン語も、中国語と同じくらい重要な言語だ。スペイン語ができれば同じラテン系のイタリア語やポルトガル語もわかるようになるだろうし、ラテンアメリカにも多くの人口、つまり市場とビジネスチャンスがある）と言っているよ。これからはコロンビアがねらい目だって」勝呂は嬉しそうにスカイプの画面を揺らした。

「そしてもう一つ嬉しいニュースがあるんだ。日本の旅行社が昨年後半ごろからお待たせしましたとばかりにコロンビア・ツアーを売り出し始めたんだよ。おっとこれは前に



Gabriel Illescas

CC BY-SA 3.0

話したっけね。和平合意のあとの治安の改善に負うところが大きいよね。旅行社のパンフレットを見たところ、ボゴタ、メデジンやカルタヘーナはもちろんだけれど、嬉しいことにメデジン近郊のグアタペが入っていることだよ。あのメルヘンチックな色彩の町並みはいったいだれの仕業なのだろうね」

「ああそうね。リアナ・マグダレーナ（マリアの長女、建築家）も言っていたけど町おこしで作り上げたんだって。アルゼンチンのボカの色彩とはまた違った町全体がメルヘンの世界だわ。シオ、今度はいつ来るの？」

➤ 読者からの突っ込み：シオのスカイプ画像

Q:シオ（勝呂）とマリアのスカイプ通信ではいつもマリアは顔を出さず、パリ・ノートダムのバラ窓の画像が代わりに映し出されています。シオはいつもそれを不満に思っ

いるようですが、一方のシオのことは触れられておりません。どうしているのですか？

A: そう言われて初めて気が付きました。実はシオも対抗上画像を流しているのです。これはシオが描いた油絵を少し加工しています。マリアに創作意欲を出させるためでもあるのです。R.mp4 をクリック。 [⊖ B-wink 本編 314 ページ](#)



R.mp4

動画検索



シオのスカイプ画像

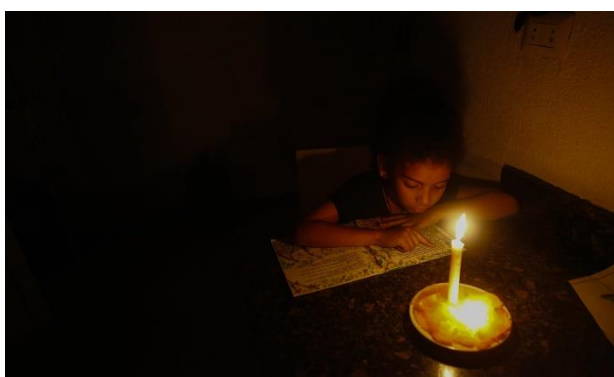


マリアのスカイプ画像

➤ 読者の質問：ベネズエラ危機（1）

Q：ベネズエラのその後を心配しています。大停電そしてこれから起きることとは。

A：2月23日の死傷者まで出した国境紛争のあと3月13日にはベネズエラ全土が大停電に見舞われましたね。原因は今ベネズエラが置かれた政治・経済状況をそのまま反映しており、前政権から放置されてきた電力インフラの老朽化、メンテナンス不備、技術者不足、サボタージュ、サイバー・テロ（米国の破壊活動）などと政府、反政府が相手をなじり合っています。ともあれインフラの老朽化やベテラン技術者の離脱は紛れもない事実なのでいつまた再発してもおかしくない状況です。案の定3月25日には再び停電に見舞われ、国は全日休日とし学校も休校としました。29日夜には3月で3度目の大規模停電で国のマヒ状態が続いています。



Venezuela blackout:  
what caused it and what happens next?

2019.3.13 The Guardian  
Photograph: Getty Images

そして見てください。両国国境をまたぐほんとなら友好の橋であったはずのあの Tiendita 橋に、マドゥーロ大統領はさらに10本以上のコンテナで通行を阻止したのです。その何本かにはご丁寧に砂や瓦礫を積み込んでいるという。これを見たマリアは

「ネシオ！（しっつこくて分別のないおバカ）」と叫んだのです。



Venezuela bloquea con 15 contenedores más puente fronterizo de Cúcuta

El Espectador/El Mundo 2019.3.22  
Agencia AFP

さらに3月28日には政府の会計検査官が暫定大統領のグアイドー氏について今後15年間、公職に就くことを禁じる処分を科したとしました。グアイドー氏が議員になって以降、活動資金を国内外の関係者から不法に受け取っていたというかどです。グアイドー氏はこれを否定し、今月30日に国内30か所で「自由のための作戦」という大規模な反政府デモを行うと宣言しています。両者の対立が先鋭化するばかりです。

➤ 読者の質問：ベネズエラ危機（2）

Q：ロシアがベネズエラ（マドゥーロ大統領）に肩入れしているって本当なの？

A：そうなのです。前の章でマリアが言っていたロシア軍事基地のことも含めロシアは本気でマドゥーロ政権を後押ししているようなのです。

マリアが先日失念していたアロンソからの情報のベネズエラ領の島の名前を寄越してきました。例のカラス沖合に造ろうとしているロシア軍基地の島です。isla La Orchila（ラ・オリチラ島）と言います。Google Mapで見ると民家らしきものはなくほとんど無人島のようなようです。タス通信でも報道されたようですからフェイク・ニュースではなさそうです。加えて、3月25日にはシモン・ボリーバル国際空港で2機の



ロシア空軍機が目撃されています。両国間の軍事技術協力という名目で100人の軍人と軍事物資が到着していると言います。大規模停電に陥っているインフラ修復にも乗り出そうとしているのです。

REUTERS

米国は、経済制裁をさらに強めてマドゥーロ大統領を退陣に追い込みたい考えですが、ロシアのこのあからさまなベネズエラ支援を牽制しており、ロシアとの対立が一層深まっています。

3. コロンビア通信：了